

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第17週 (4/23-4/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		17週	16週	15週	14週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	15	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	24	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/23-4/29	4/16-4/22	4/9-4/15	4/2-4/8	4/16-4/22
			17週	16週	15週	14週	16週
小児科	RSウイルス感染症	◎	12 0.80	3 0.17	5 0.28	6 0.33	21 0.16
	咽頭結膜熱		2 0.13	0 0.00	2 0.11	1 0.06	44 0.34
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		39 2.60	49 2.72	43 2.39	32 1.78	376 2.87
	感染性胃腸炎		115 7.67	103 5.72	68 3.78	79 4.39	570 4.35
	水痘	○	19 1.27	7 0.39	12 0.67	4 0.22	42 0.32
	手足口病		0 0.00	2 0.11	1 0.06	2 0.11	7 0.05
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00	22 0.17
	突発性発しん	○	17 1.13	13 0.72	13 0.72	8 0.44	66 0.50
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	2 0.11	2 0.11	9 0.07
	流行性耳下腺炎		2 0.13	2 0.11	1 0.06	1 0.06	17 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		16 0.67	31 1.11	18 0.64	23 0.82	165 0.79
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	3 0.60	1 0.20	2 0.40	18 0.51
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	3 0.33

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出	A型肝炎	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離同定等	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体の分離同定等	-	-	-	-

・第17週は、結核3件(64)、A型肝炎1件(4)、梅毒1件(9)の報告があった。

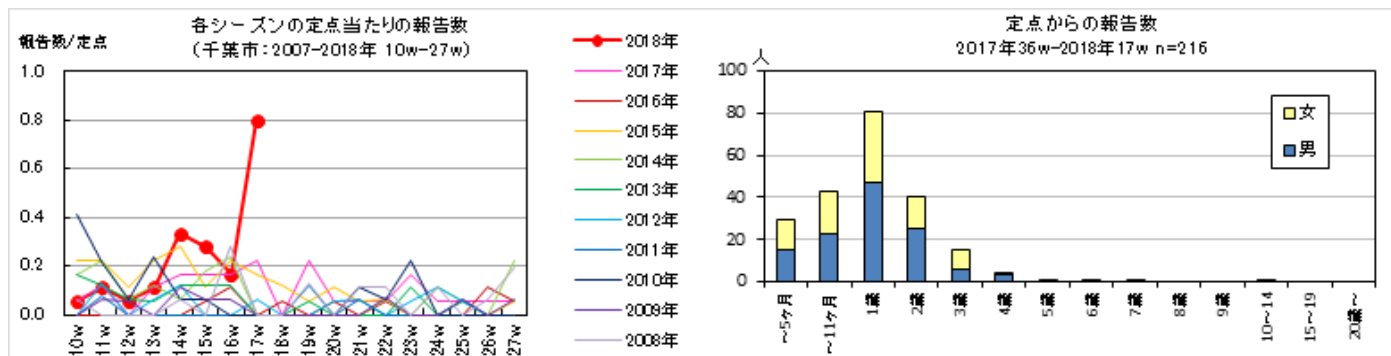
※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第17週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.80となった。過去10年の同時期と比べると最多。
 <水痘> 前週より増加し1.27となった。過去10年の同時期と比べると多め。
 <突発性発しん> 前週より増加し1.13となった。過去10年の同時期と比べるととても多い。

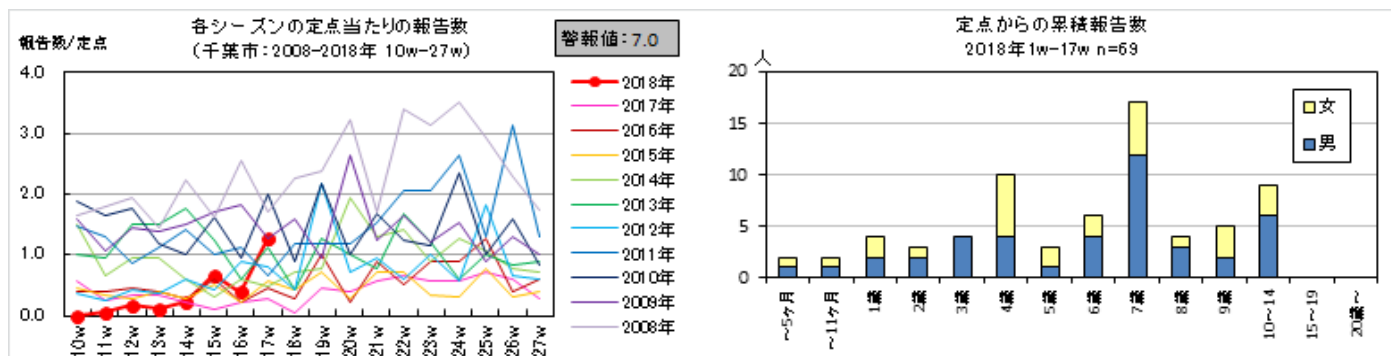
<RSウイルス感染症>

全国レベルは第12週から連続して過去10年の同時期と比べて最多の状態が続いており、第16週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、北海道及び新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第17週は前週より大きく増加し0.80となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区(2.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第17週までの累積報告数(n=216)によると、性別では男性が55.6%(120名)、女性が44.4%(96名)で、年齢階級別では1歳(37.5%:81名)、6-11か月(19.9%:43名)、2歳(18.5%:40名)の順で多くなっています。



<水痘>

全国レベルの第16週は、過去10年の同時期と比べると少ないレベルとなっています。都道府県別では山口県、宮崎県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市は第14週から上下しながら急速に増加傾向にあり、第17週は過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、中央区(4.67/定点)で流行発生注意報基準値(4.0/定点)を上回り最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第17週までの累積報告数(n=69)によると、性別では男性が60.9%(42名)、女性が39.1%(27名)で、年代当たりの年齢階級別では7歳(24.6%:17名)、4歳(14.5%:10名)、6歳(8.7%:6名)の順で多くなっています。



<突発性発しん>

全国レベルの第16週は、過去10年の同時期と比べると少ないレベルとなっています。都道府県別では熊本県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第17週は前週より増加し1.13となり、過去10年の同時期と比べるととても多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(2.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第17週までの累積報告数(n=128)によると、性別では男性が48.4%(62名)、女性が51.6%(66名)で、年齢階級別では1歳(60.9%:78名)、6-11か月(19.5%:25名)、2歳(13.3%:17名)の順で多くなっています。

